

## 国語解答例

一

問一 1 生涯（涯） 2 退散 3 流布 4 妖術 5 獣（獸）性 6 人知（人智） 7 降臨（光臨）

問二 作曲した「魔笛」で笛に対する想いが本物であると知れるから。（二九字）

問三 笛の音には、この世とあの世、天と地のような異世界を結びつけ、行き来を可能にする力があるということ。（四九字）

問四 発音体を介在させず息が直接音になる笛などの音を契機に直感できる、物理的には存在しない、人智を超えた世界にあるもの。（五七字）

問五 異界とのつながりをもたらすような音を生み出す笛と、たいてい音を出す単純な楽器としての太鼓の合奏が神事や祭礼に用いられていることから、異界と交信する原始的な神秘性から音楽が始まったと考えている。（九六字）

二

問一 個人的に知らない人間と愛し合わなければならないという思想は不合理で危険だから。(三九字)

問二 好まない人間を無理に愛そうとせず、がまんする努力をする方がよいという考え方。(三八字)

問三 信念は特定の思想を絶対化するため、信念を持つ限り公正であることは不可能だから。(三九字)

問四 何らかの信念にもとづいて行使される暴力に対処するためには、別の信念に依拠する必要があるということ。(四九字)

問五 フォースターの寛容の思想は、今の社会を維持することを前提としており、信念を伴う理想によって社会を再構築する必要があると植民地や労働者階級には通用しないということ。(八〇字)

三

問一 イ すぐに／急いで      ロ そのまま      ニ 考えなく／工夫なく

問二 扇絵の郭公の姿が切れていることに気づいたため、恐れ入って扇を差し出すことができなかった。(四四字)

問三 郭公が姿を見せないという歌を詠むために、守長がわざと郭公の絵を切ったと考え、その工夫に感心した。(四八字)

問四 能因の場合は、歌が先にあつてそれに合わせたうその状況を作為的に作り出しているが、守長の場合は、意図せぬ失敗が先にありそれを取りつくりうために詠んだ歌が結果的に賞賛された。(八五字)

四

問一 a これを b ひとしく c たちどころに d むべなるかな e ますます

問二 これによりてこれをみれば / これによりてこれを見るに

問三 張説が辞退して言うには、学士は従来から「大」の名をつけることは無く、わたくしも強いて進んで「大学士」と称することはいたしません、と。

問四 「爺」を称する者がさらに「老」をつけ、「老」を称する者がさらに「大」をつけて称するが、数年後、「大」のさらに上の尊称がどのようになるかということ。(七三字)

人間は下の者から諂われることを喜び、尊称を増して驕るばかりで、爺が老爺となり老爺が大老爺となり、さらにその先はどんな尊称がつけられるかということ。(七四字)